第1章　現状と課題

1　北九州市立図書館の現状

（1）　前回答申（平成28（2016）年）以降の歩み

ア　図書館施設の再整備

北九州市公共施設マネジメント実行計画に基づき、平成 29（2017）年に勝山分館が、平成30（2018）年に企救分館、国際友好記念図書館及び戸畑分館が、平成31（2019）年には八幡東分館がそれぞれ廃止となりました。

一方で、平成30（2018）年には小倉南区民の強い要望のあった小倉南図書館と子どもの読書活動の推進拠点となる子ども図書館が新たに開館しました。さらに、令和4（2022）年には折尾分館が移転・開館しました。

その結果、市内に中央図書館（小倉北区）、子ども図書館（小倉北区）、6地区館（小倉北区を除く6区）及び6分館（門司区・小倉南区・八幡西区・若松区）の全14館が整備されました。

そのうち、中央図書館と子ども図書館を除く12館で指定管理者制度が導入されています。また、一部施設の老朽化により、建物や設備の修繕などが必要な状況となっています。

イ　図書館サービスのさらなる充実

図書館の利便性を高めるために、JR 小倉駅構内とコムシティ（黒崎）前に返却ボックスが設置され、図書館以外での返却が可能になりました。

また、コロナ禍での子どもの読書や学習の機会を確保するために、令和3（2021）年4月、本市で初めての電子図書館となる「北九州市子ども電子図書館」が開設され、市内の小中学生へ ID・パスワードが配付されました。

さらに、地元にゆかりのある作家の作品の充実や、市民の課題解決支援のための分野別配架などが実施されました。他にも、来館のきっかけづくりのために、子ども図書館への読書通帳機の設置や、中央図書館での外国人市民の図書館ガイドツアー等が実施されました。

ウ　新型コロナウイルス感染症への対応

令和2（2020）年に新型コロナウイルス感染症の拡大が始まり、その防止対策として、令和2（2020）年2月から令和3（2021）年6月にかけて、3度（計155日間）にわたり臨時休館が行われました。

一方で、令和2（2020）年6月24日から同年度末までは、開館時間の制限はあっ

たものの、閲覧スペース・学習室の座席の間隔の確保などの対策を取りながら、市民の読書機会の確保・維持が図られました。

令和5（2023）年5月8日に新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが2類から5類に移行されたことに伴い、感染症拡大防止対策は緩和されました。

（2）　市立図書館の利用状況

ア　貸出者数及び貸出冊数

ここ10年間の貸出者数の推移（図1）をみると、令和2（2020）年度から令和4（2022）年度までのコロナ禍において、市立図書館では臨時休館や開館時間の短縮などが行われたため、令和2（2020）年度の貸出者数は前年度から34％減と大きく落ち込みましたが、令和3（2021）年度からは回復傾向にあります。

また、分館での貸出者数は平成28（2016）年度から令和2（2020）年度にかけて減少する一方で、地区館の貸出者数は平成30（2018）年度に大きく増加しました。これは、平成29（2017）年度から令和元（2019）年度にかけて分館等5館が廃止となったことや、平成30（2018）年度に小倉南図書館が新規開館したことによるものと考えられます。

ここ10年間の貸出冊数（図2）についても、貸出者数と同様に推移しています。

なお、貸出者一人あたりの貸出冊数は3．8～4．0冊程度となっており、10年間で大きな変化は見られません。

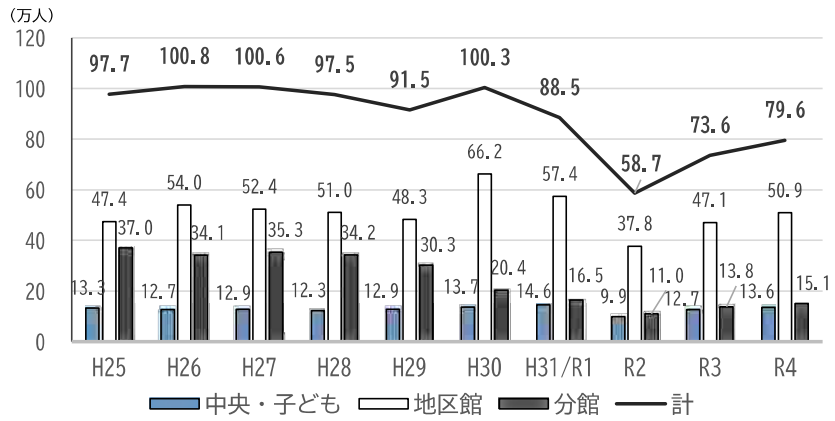

図１　図書館別の貸出者数の推移（個人貸出）

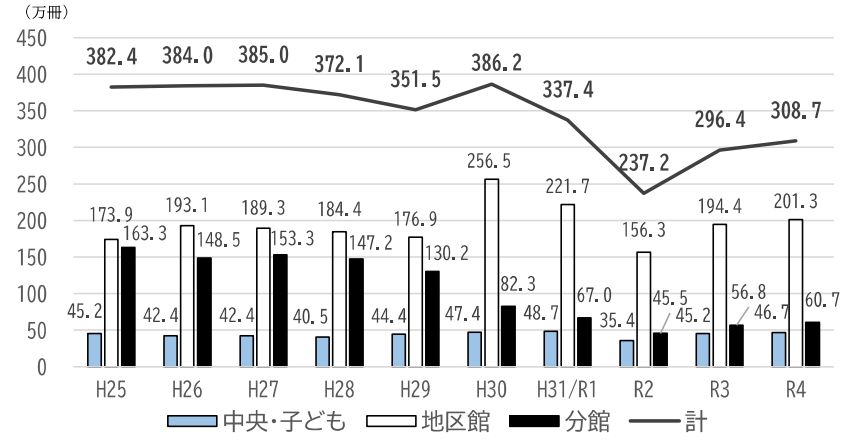

図２　図書館別の貸出冊数の推移（個人貸出）

イ　図書館利用者の満足度

図書館では、利用者を対象に図書館サービスの満足度に関するアンケート調査が毎年度実施されています（令和元（2019）年度はコロナ禍のため未実施）。その結果によると「非常に満足」又は「満足」とする回答の割合（図3）の合計は、「職員の応対」及び「職員の知識や説明」では98％以上、「調べものの支援」及び「展示・行事の内容」、「探しやすい配架」では90％以上となっています。「充実した蔵書」については他の項目と比べるとやや低い水準ですが、88％前後で推移しています。

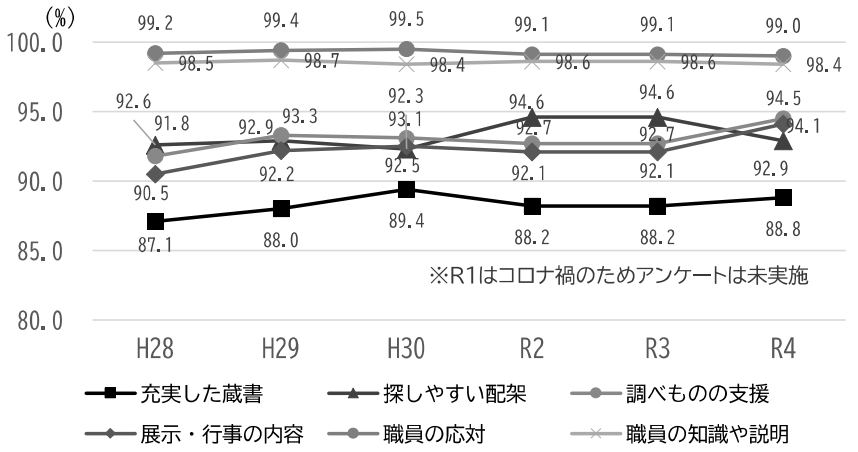

図３　図書館利用者の満足度(※)推移

※「満足」又は「非常に満足」とする回答の割合の合計

２　北九州市立図書館を取り巻く状況

（1）　社会的な背景

ア　北九州市における人口の動向

北九州市の人口は昭和54（1979）年の106万8千人をピークに減少が続き、令和

5（2023）年10月時点では91万6千人となっています。そのうち、65歳以上の高齢者が総人口の約31％を占め（令和5（2023）年4月時点）、政令市の中で最も高齢化が進んでいます。一方で、出生率は平成22（2010）年以降過去最低を更新し続けるなど、少子高齢化の状況にあります。一方で、転入者数から転出者数を引いたマイナス幅は改善傾向にあります。

イ　北九州市と多文化共生

北九州市の総人口は減少傾向にありますが、市内に住む外国人の数については、年々増加傾向にあります。令和4（2022）年度末時点の外国人市民の数は約1．4万人で、北九州市の総人口の約1．5％を占めています。近年では多国籍化も進み、約100の国や地域にゆかりのある外国人が北九州市に住んでいます。また、在留目的についても永住、留学、技能実習など多様化が進んでいます。

ウ　コロナ禍を契機とした社会の変化

令和2（2020）年以降の新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会全体で「オンライン化」、場所や時間にとらわれない「柔軟な働き方」、家族や健康、自分らしさを大切にする「持続可能な暮らし方」、東京一極集中を回避するための「地方分散の取組」等、働き方や人々の価値観にも変化が生じています。

（2）　図書館に関係する主な法整備や計画策定の動き

前回の答申（平成28（2016）年）以降制定された主な法律、国や市の計画等は、次のようなものがあります。

「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」（令和元（2019）年 6 月）では、図書館は、視覚に障害がある方等が利用しやすい書籍等の充実や利用支援の充実などが求められています。

「デジタル社会の実現に向けた重点計画」（令和5（2023）年6月）では、図書館等の社会教育施設がデジタル技術を活用し、地域の教育力を高めること等が求められています。

「こどもの居場所づくりに関する指針」（令和5（2023）年12月）では、多様な子どもの居場所づくりを進めるに当たり、図書館等の施設等既存の地域資源を活用することも有効とされています。

北九州市の動きとしては、「北九州市基本構想・基本計画」（令和6（2024）年3月）が策定され、本市の目指す将来像が示されました。また、「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」（令和元（2019）年8月）は、令和6（2024）年度に改定予定で検討が進められています。

図書館の運営に当たっては、これらの法律や各種計画等を踏まえて行っていく必要があります。

（3）　読書や図書館に対する北九州市民の意識

この答申にあたり、中央図書館が実施したアンケート調査の結果をもとに、市民の読書の実態や図書館への要望等の把握を行いました。

ア　実施概要

区分	対象	回答者数
一般市民	18歳以上の北九州市民（無作為抽出）	692人
図書館利用者	市立図書館（14館）の利用者	822人
中高生	中学3年生（各区1校） 高校3年生（各区1または２校抽出）	393人 558人
小学生	小学6年生（各区1または２校抽出）	606人

※「一般市民」及び「中高生」、「小学生」には、図書館を利用する人も含まれます。

※小学生対象のアンケートは質問数を減らし、表現も平易なものに変更して実施されました。

イ　結果概要（一部抜粋）

ここでは、アンケート調査結果のうち読書の実態や図書館に求めること等について、図書館利用者でない人も含む一般市民と中高生、小学生を中心にまとめました。

〇読書習慣・図書館の利用について

●読書習慣

ひと月に読む本の冊数　（図4）

・一般市民全体では、「1～3冊」が約半数で、最も多い

・一般市民のうち、「0冊（読まない）」は全年代で25％超で、20代では約半数（48．9％）

●図書館の利用

図書館の利用頻度

・20代は「ほとんど利用しない」「全く利用しない」が70％超

・中高生も「ほとんど利用しない」「全く利用しない」が60％超

・30代以降、「ほとんど利用しない」人が減り、「年に数回程度」以上利用する人が増える傾向

本の入手手段

・20代は他の年代と比べて、図書館等で借りて読書をする人が少なく、一方で電子書籍を購入して読書をする

●図書館の利用の仕方

図書館の利用目的

・一般市民と図書館利用者では「本や雑誌、CD・DVD を借りる・返す」が「本を読む」より多いが、小学生と中高生では逆転

・中高生では「学習室利用」が最も多い

・30代は「子どもと過ごす」の割合が他の年代よりも多い

・一般市民全体では「借りる・返す」、「本を読む」に次いで「調べ物をする」が3番目に多く、4番目が「のんびりする」

滞在時間

・一般市民と図書館利用者で最も多いのは「30分～1時間未満」であるが、中高生では「1時間～2時間未満」と長くなっている

●図書館を利用しない理由

「ほとんど利用しない」「全く利用しない」人の、利用しない理由

・20代では、多い順に「借りたり、返したりが面倒」「図書館に行く時間（暇）がない」「インターネットを利用して調べ物をしているので行く必要がない」

・中高生では、多い順に「本や図書館に興味がない」「図書館に行く時間（暇）がない」「借りたり、返したりするのが面倒」

○図書館に求めることについて

●図書館に求める取組等

今後利用しやすくするために図書館に求めること （表1、図5）

・一般市民と中高生では「ネットワーク環境（Wi-Fi 等）の充実」が最も多い

・「読書スペースやパソコン席等の充実」は、全ての対象者で2番目に多い

・その他、「蔵書の充実」「イベントの開催」「子どもが読書や図書館に親しめる取組み」が多い

●図書館に求める役割

図書館でどんなことができたらよいか （表2、図6）

・小学生は「家族や友達といっしょに楽しく過ごせる」が最も多く、それ以外の対象者は「ふらっと立ち寄り気がねなく過ごせる」が最も多い

・中高生では、「暑さ・寒さ・風雨を避けて快適に過ごせる」「家族や友達と一緒に楽しく過ごせる」「グループで交流できる」も多い

・一般市民と図書館利用者では、「さまざまな世代が楽しくイベントに参加できる」「生活や仕事、学習に役立つイベントに参加できる」も多い